



表紙の写真

雑誌「話題と小説」

雑誌「話題と小説」は昭和22年9月、戦後いち早く黒土の中から生まれた読売雑誌である。

雑誌は時代を写す鏡だと言うが、変遷した社会状況下、犯罪や事件などを題材した犯罪実話、怪奇実話、政界夜話など社会性のあるこれらの話題が人気を得た。

後「実話と小説」に改題。別府智光(演劇脚本家)、南 龍彦、伊藤映二らが健筆をふるった。

出版は「モダン甲府社」、発行人・小池公久。表紙絵・馬場ひろし。定価30円。頁数平均30ページ。この時代、密造酒カストリが巷に流れた。同様刺激の強い雑誌類がカストリ雑誌などと呼ばれたが、紙業不足、赤字に飢えた市民から大歓迎された。一時代を画した雑誌である。(最終回)

(解説：奈良余美文庫 植松光宏)

「MUH」vol.26 2002.4.1

企画／早野グループ「MUH」編集室

深沢進・矢田道生・坂本孝治・望月賢

編集／株式会社ニュースメディア甲府

三神弘・三井君典／高山ひとみ／杉田陽子／

宮澤利雄・杉村聡・青木茂樹／

浅川毅・樺克明・永田宏

印刷／株式会社サンニチ印刷

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を記した Mate (仲間) Union (結束) Harmony (調和) の頭文字からとりました。21のムー大膽のロマンを日指します。

フォーラム	ハシコ	2
テーマ	印 鑑 江宮隆之・古屋久昭・岩崎正吾・佐藤眞佐美	
対 談		
山梨21	古屋俊仁氏 古屋法律会計事務所 弁護士 公認会計士 税理士	4
	見えない時代をどう見るか 法律、経済をとおした世相の変化 山梨の元気のエネルギーとは	
	ホスト 早野 潔	
トピックス		
日韓共催のワールドカップFIFAサッカー大会	宮塚利雄	10
ウォッチング		
株式会社 中部環境開発 代表取締役	太田 一氏	11
サークル訪問		
山梨漢詩会		13
セミナー		
「価格破壊ではなく、既存価値破壊・新価値創造へ」	青木茂樹	14
レディースセミナー		
生命の移ろい	一木麗子	15
インフォメーション		
甲府通運・早野組・トヨタビスタ山梨・トヨタホーム山梨		16
座 交		
安藤広重と甲州	上野晴朗	18
美 術		
ボク的美術品観察日記19	山本育夫	20
BOOK こんなところに山梨…	BOOKコーナー 「がんばれ のろまなカメさん」	22
お茶の間の民俗学(17)		
—ふるさとの心と味(12)—	志摩阿木夫	23
名峰からの富士山		
毛無山	上野 巖	24
甲府通運前史を訪ねる(19)	林陽一郎	25
ユーザー訪問		
公認 山梨警察犬・愛犬訓練学校		26
お慶拝見		
出澤良人さん		27
エッセイ		
寮 歌	鬼丸智彦	28
ときのひと・FACE		
株式会社早野組 土木本部開発部 部長	森田二三夫さん	29
やさしい手		
介護サービスのご案内		30
おしゃれ 上質専門館 いずぎ家具	たべる ノエル オー ビットイン	31
コラム		
某月某日	杉村 聡	32

武田三代の印判

江宮隆之

印鑑

鼻の判を欲しくてたまらない。「不・苦・勞」に通じるから、ということではない。あの鼻の表情がとても愛敬があって好きだから。それだけの理由である。

ところで、戦国武将にとって「花押」は自らがその文章を書いたことを示す、その武将だけのサインである。武田信玄が死亡する前に、数百枚もの白紙に花押を作っていた、などというエピソードは半分は眉唾であったとしても、ありそうな話だ。

信玄に限らず、多くの戦国武将が同じようなことを考えていた可能性はある。それも強い武将に限って「自分が死亡した後も、影響力を残しておきたい」と考えても不思議はないからである。

武将は「花押」というサインのほかに、必ず印判をも持っていた。現在のように名前を彫った印判もあったが、龍や獅子の顔などを形取った印判も使った。

当時の武将の間では、龍、虎、獅子に加えて象、鶴、馬なども印判の形像として用いられていた。

小田原の北条氏康は「虎」を彫り上げた印判を使ったようであるが、ここでは甲斐武田氏に絞っての印判について記したい。

信玄は「武田不動尊」に見られるように、不動尊信仰を重視していた。この不動尊信仰は、始祖の新羅三郎義光以来甲斐武田氏に伝えられてきたもののようである。

不動尊は、動物でいえば「龍」に例えられる。いわば、龍を化身とする仏である。信玄が、特に龍を好んだのは当然のことといえる。

ところで「武田三代」というと、信虎・信玄・勝頼を指すが、この三人の間にも印判の特徴があって楽しい。

信玄の父親である信虎は、虎と獅子を主に印判として使用したが、信玄は龍だけをを使うようになる。そして勝頼は、龍と獅子を使った。いずれも霊獣であって、神秘ゆえの加護を望んでいた可能性も高い。

もっともこうした印判が「武威の象徴」に発展していったことは戦国時代という、特殊な時代だけによく分かる。

ところで戦国時代の武将に鼻の判を使用した形跡はない。当然であろう。誰も「鼻雄」などという汚名を着たくないから。

※鼻雄：顔でただけいいこと

さらば、印鑑よ

古屋久昭

印鑑にまつわる嫌な思い出が浮かんでこない。ということは、これまで平凡に生きてこれた、平凡な者がゆえに幸せでもあったということになるのか。

お金に係わる連帯保証人だけにはなるな、という話を耳にする。印鑑を一つ押したがために人生が狂ってしまった。何ともお気の毒という以外に言葉はないのだが、この種のトラブルや悲劇は常にどこかで起こっている。

連帯保証人を必要とする書類があるかぎり、そしてそこに、印鑑が押されるのを待っている、兄弟、親戚、親しい友がいるかぎり、「ついつい」という可能性は生涯つきまとう。

「金と友情は水と油」。映画「ゴッドファーザー」の中の科白だが、そうかもしれない。

たかが印鑑、されど印鑑。軽く扱って、ひどい目に遭い、深く考えると、窮屈だ。

職場で時に見られるのが「…印」。差別用語になるのでこの印のことは口には出せないが、机の上に洪水のように集まってくる書類の処理も、この「…印」で間に合わせる場合があるからこそ、事務処理もスムー

ズに流れていくというわけだ。

確かに何ページもある書類の一枚一枚を、馬鹿丁寧にチェックなどしていたら、それこそ仕事なんて捗らない。回ってくる書類の意味するところを瞬時に捉え、書類によっては、あとは「…印」。この使いわけこそ、サラリーマンの上に立つ者に要求される必須の能力かもしれない。

今のところ、人の一生には印鑑が付きものである。特に人生の節目ときには、必要とする書類というものがある、印鑑のお世話になる。そこにもし印鑑がなかったならば、一步も前に進めない。書類を目の前にして地団駄を踏む。そういう経験をした者も少なくないだろう。

だが、一方で印鑑不要の時代にも入っているのだ。役所への軽易な申請書など、印鑑なしでOKという状況が生まれている。もちろん印鑑レスは、役所以上に民間の方がうわ手である。インターネットに代表されるように、電子社会が拍車をかけているのだ。

「さらば、印鑑よ」。21世紀中に実現可能なものの一つになるのかもしれない。

ハンコの不思議

岩崎正吾

たびたび、しばしば、毎日のように使いながら、しかし、改めて考えるとハンコというのは不思議なものだと思う。

文字ばかりの黒一色の書面、末尾に自筆で署名しても全体の印象は変わらない。それが、一センチ四方ほどの印鑑を名前の下に押すだけで、署名は生き、全体の印象ががらりと変化するのだ。たった一つの小さなハンコが、数百倍もある部分を引き締めてしまう。朱色の魔術とでも言いたいほどだ。

だが、ハンコはなぜ朱色なんだろうか。赤や青や紫であってはいけない理由はあるのだろうか。別に何色だってかまわないような気もするが、朱色でなければあのような鮮やかな全体の変化は生まれないだろう。印影も読みにくいに違いない。ちっぽけだが、偉大なる朱色というべきだろう。

黒字ばかりの書面では朱色は他の面積を圧して際立つが、日本画の署名の下などに押されると(落款というらしい)、全体の色彩に溶け込んでしまう。目立たず、でしゃばらず、しかし、しっかりと署名を支えている。やはり偉大なる朱色と言わざるをえない。

しかし、その美的価値は十分に認めるが、押印に実用的な意味はあるのだろうか。印鑑証明付きのものはともかく、認め印などは疑ってしまうことがしばしばある。認め印には、どこの文房具屋でも買えるような三文判を使うこともある。住所氏名はゴム印、印は三文判、姓が鈴木だの佐藤だの平凡だと、署名捺印などどうでもいいような気がしてしまう。思うに最後に署名捺印するのは、押す方と押される方との確認の儀式のようなものではないか。西洋的な契約というよりも、きわめて東洋的な信頼の形式のように思える。

さて、唐突ではあるが、わたしは最近、入院して手術を受けるハメになった。手術に当たって同意書に署名捺印を求められたが、あれは気持ちのいいものではなかった。何だか、手術の結果、死のうが障害が残ろうが一切文句を言わないというふうに読めてしまうのだ。わたしは釈然としない気持ちで署名し、引き出しの隅に転がっていた古びた三文判を押した。

「医師は全力をつくす、患者は医師を全面的に信頼する」というような文面にし、お互いに署名捺印、東洋的な信頼の儀式を交わせばいいのではないかと思う。

世界初の橋上都市「富士川市」構想について

佐藤眞佐美

栃木県に、東南アジアの人々に農業技術を教える「アジア学院」という教育施設がある。この学校を作ったときの責任者ウオルター・ショウ氏は、わたしが米国滞在中の身元引き受け人であった。宣教師として来日中にショウ夫人から英会話を習った。そのついで渡米し、帰国後お礼に「莊阿」と彫った印鑑を贈った。使うことなどまずあるまいと思っていたのに、数年後ショウ夫妻が再来日し、アジア学院設立に関わった。そのときなんと「莊阿」の印鑑が大活躍をしたのだ。

「アメリカではサインで済む書類が、日本ではハンコがなきゃだめなんだね。きみからあれをもらって、大いに助かったよ」ただし「文字は昭和のほうがよかったね」ショウ氏は時の天皇が昭和なので、その字にしてほしかったらしい。

ところで、岐阜地方が将来合併して「市」になるとすれば、どういう構成がベストか、ということが友人間でしばしば話題になる。わたしはハンコの町六郷をぜひ仲間に加えてほしいと思い、次のような構想を披露した。広く識者の感想をお聞きしたい。

現在三珠、市川大門、増穂、諏訪の4町で合併協

議が進められているようだけれども、わたしは西八代郡全体(三珠、市川大門、六郷、下部、上九一色)に増穂、諏訪、中富を加えた8町村で構成してはどうかと思う。この構成でもっとも大事なのは、市域の中心を富士川が流れていることだ。しかも釜無川と苗吹川が市川大門と対岸の増穂で合流し、ここから正真正銘の富士川になる。ゆえに市名は「富士川市」が最適ではなかろうか。

市庁舎は富士川大橋の上に建設したい。川の上にビルを建てるのは法的に困難があるようだけれども、東京湾に「海ポタル」を作れるなら、川だって条件をクリアできるだろう。

橋の上に五階くらいビルを建て、屋上に岐阜地方の特産物を並べるコーナーを設け、三珠の人参、六郷の温泉、上九一色の洞窟などを紹介する。特産品展示場のそばに日本初の市営のバンジー・ジャンプ台を設け、一年中富士川へ飛び込める施設も設置したい。話題性のある都市造りができるのではないだろうか。建設に必要なハンコはがっちり確保して。

佐藤眞佐美
1949年山梨県生まれ
作家、第十二回読者文
学賞、第八回中村文
学賞受賞。著書に
「有縁の人」「政治的良心に
対して」「一筆の
書」「読者の手」「林下
の風」など多数
佐藤眞佐美
1949年山梨県生まれ
日本現代詩人会会長、日
本現代詩壇文学批評家
会、詩集に「読者の手」
ほか、著書に「有縁の人」
など多数
佐藤眞佐美
1949年山梨県生まれ
作家、第十二回読者文
学賞、第八回中村文
学賞受賞。著書に
「有縁の人」「政治的良心に
対して」「一筆の
書」「読者の手」「林下
の風」など多数



早野 潔

古屋 俊仁氏

法律、経済をとおした世相の変化 山梨の元気のエネルギーとは 見えない時代をどう見るか

ゲスト

ふる や としひと
古屋 俊仁 氏
古屋法律会計事務所
弁護士 公認会計士 税理士

ホスト

はや の きよし
早野 潔
早野組社長

夢と将来を自己申告 目標が道をひらく

早野 古屋先生との出会いは、もう、25年ほど前にさかのぼりますね。

古屋 早野社長もまだ30代の前半でいらして、社長に就任されたばかりでした。私も、甲府に事務所を構えたばかりでした。

あの頃も、お忙しく営業活動をされていましたね。ふらりと私の事務所に立ち寄られても、電話をいつもされていました。人と仕事を大切にされ、細やかな配慮をされる方だな、という印象をもちました。

早野 先生は弁護士と公認会計士の資格をおもちで、これからの山梨を開く期待の人として注目されていましたね。

長いお付き合いとなりましたね。時代も変わりましたね。今日は、その移り変わりのなかで、山梨の今日を語っていただければ幸いです。

弁護士と公認会計士の資格をお取りになられたのは、おいくつのときでしたか。

古屋 28歳でした。

早野 お若かったですね。現在山梨には、弁護士、および公認会計士は、何人ぐらいですか。

古屋 弁護士は54名、公認会計士は18名です。

早野 弁護士と公認会計士の資格を併せておもちなのは山梨では先生だけです、全国ではどのくらいいらっしゃるのですか。

古屋 15名ほどだと聞いたことがあります。

早野 資格の尊さがわかりますね。志はいつごろ、どんなふうに出てら

れたのですか。

古屋 大学を卒業しまして、はじめは一般の民間会社に勤めていたのです。そのころ企業では経営管理手法の一環として、自己申告制度というのを奨励し、重んじていました。アメリカで成果を挙げている制度で、社員にどんな仕事をしたいのかを自己申告させ、希望をかなえながら配置転換をし、能力を高めていこう、経営を向上させていこうという取り組みです。

そのとき、私は、将来は弁護士や公認会計士の資格を取得し、その知識を会社に反映させたい、と自己申告したのです。苦気の至りでした。

早野 大きな目標を自らに課しましたね。

古屋 会社に申告したのですから、これはもう、やらなければなりません。何だ、あいつはと、言われたくはありません。そこで勉強することになりました。

早野 目標の立て方、動機にも、いろいろあるのですね。

そしてまず、公認会計士の二次試験に合格された。公認会計士は二次試験のあと3年間、監査法人や会計事務所実務を学び、三次試験の受験資格を得るという制度になっていますよね。

古屋 会社にいるつもりだったのですが、周囲の勧めもあり、監査法人に勤めることになりました。面接にまいりましたら、山梨とゆかりのある先生がいらして、私の部屋に来なさいと、採用してくださったのです。

この先生は、弁護士と公認会計士の資格をもっていらして、当時は日本で5人という偉業を成し遂げた方

でした。いつか先生は、私の目標となっていました。

早野 いい出会いをなされましたね。

古屋 先生のもとで3年間業務補助をしながら、司法試験と公認会計士の三次試験の勉強に励みました。

早野 仕事をしながらの勉強ですね。

古屋 時間を効率よく使うことも身につけました。

早野 そして3年後、司法試験、公認会計士の三次試験をともに合格されました。

人生、目標をもつと道が開けますね。出会いにも恵まれますね。

規制緩和と法律 新しい紛争の時代

早野 山梨県の監査委員になられたのは平成3年のことでしたね。先生は40代になられたばかりで、全国でも異例の若さでした。

8年間勤められ、ご苦労が多かったのですが、この間、県民が注目したのは30億円をこえる不適正支出問題でした。監査という仕事の重要性についても意識した出来事でした。

そして現在は、包括外部監査人という役職に就かれていらっしゃいます。

古屋 全国の不適正支出問題を契機に、地方自治法が改正されまして、監査委員制度とは別に、外部監査人という制度が新設されました。会社というなら、監査委員が監査役で、外部監査人は会社の公認会計士というふうな立場です。

地方分権の社会における、自立と

管理ということを強く意識した制度
とあってよいでしょうか。

早野 見えない時代、複雑、多様化
の時代といわれますが、時代を見守
る司法、弁護士の世界も変貌してい
るのでしょうか。

古屋 司法の世界では今、かつてな
い改革を進めておりまして、基本的
には、弁護士を増やしていこうとい
う動きがあります。日本の弁護士の
数は、現在人口7,500人から8,000
人に対して1人という割合ですが、
アメリカでは300人に1人、イギリス
では800人から1,000人に1人とい
う割合です。

先進国のなかで日本に最も近いの
がフランスで、3,000人に1人の割
合です。日本は今後10年から15年
をかけて、このフランスのレベルに
まで増やそうとしています。

早野 経済と同様に、規制緩和で
すか。

古屋 規制緩和が経済を活性化さ
せる重要なポイントだというのは、
いわばイデオロギーのようなもので
すね。これが正しいイデオロギーで
あるかどうかは、やがて歴史の判断
を待つしかないのでしょうか、今の
世界の潮流は、規制緩和です。

早野 このことによって、どんな事
態が想定されるのでしょうか。

古屋 たとえば、規制によって事前
に紛争を防止できたものが、規制緩
和によって紛争が多発するという事
態を招く、という可能性があるでし
ょうね。そうした社会になったとす
るならば、とても現在の弁護士の数
では対応できません。

早野 果たして日本における規制緩
和は、アメリカのような複雑な紛争を

多発させるのでしょうか。

古屋 そこは、論議を呼ぶところで
すね。

早野 国民性の違いもありますから
ね。

さらに、情報化、国際化が進展し、
また、環境問題などが問われる時代
になりますと、司法も、弁護士も、それ
に対応する必要にせまられます。

古屋 おっしゃる通りで、公害問題
のような新しい紛争には、司法改革
によって対応していかなければなら
ないでしょうね。社会のニーズに応
えるべく、弁護士会においても専門
分野の認定制度を設けようという発
想があります。

早野 時代というのは、常に動いて
いますからね。

古屋 司法もまた、時代とともにあ
ります。



旅に出て知る山梨のよさ 好条件を活かす意識改革

早野 見えない時代といいますが、
「ふるさと山梨」はいつも元気でいた
いものです。また、自信をもち続け
たいですね。

古屋 旅に出て山梨を知る、という
ことがあります。石垣島へ行ったと
きのことです。素晴らしい自然を満
喫できる島で、観光資源も豊かです。
ご一緒した石垣島の市長に、その感
動を語りますと、しみじみと顔を眺
められました。

早野 賞賛に対して、唖然としたの
ですか。どうしたのでしょうか。

古屋 ほんとうに、そうおっしゃるの
かと、真顔で確かめられました。異
議があるという表情でした。重ねて、
石垣島の魅力を語りますと、市長は
口調を変え、石垣島との比較のなか
で、山梨がいかに恵まれているかを
さとしてくれました。

山梨というところは、本土の真ん
中に位置し、しかも、日本のシンボ
ル・富士山がある、さらには、世界最
大の都市・東京に隣接し、高速道路
で1時間ほどの距離にある、水が清
く、緑豊かな住環境にも恵まれてい
る、と評価するのです。

早野 確かに、再認識すべきですね。

古屋 市長は、石垣島を眺めてくだ
さい、緑はありません、石垣島の人
々が100年間、飲まず食わずで働
いても得ることのできない価値を、
山梨はもっているのですよ、と溜め
息をついたのです。

飛行機で帰ってきて、高速道路で
山梨に向かいながら、石垣島の市長
の言葉を繰り返してみました。なる



ほど、山梨は素晴らしい条件をもち
合わせている県なのですね。

早野 外からの目で、山梨を眺め、
実感されたのです。

山梨県人の感受性というのは、批
評精神があるのか、皮肉屋なのか、
なかなか自分の住むところを素直に
愛し切れないというところがありま
すね。

古屋 山梨の素晴らしさを評価する
のは、多くは転勤族ですね。口々に
魅力を語ってくれます。また、転勤
していくときの送別会でも、山梨を
思い出深く、愛情をこめて語ってく
れます。

社交辞令かと受け止めていたの
ですが、そうではないのです。土地
を求め、家を建て、家族を住ませ
ている人がいます。退職後に、山梨

に移り住んだ人もいます。

早野 山梨県人は、環境の恵みを
再認識するとともに、意識改革もし
ていかなければなりません。

古屋 「ふるさと山梨」の元気も、自
信も、そこから生まれていくのでは
ないでしょうか。

道路が結ぶ明日 教育と社会基盤づくり

早野 山梨の「ふるさとづくり」に目
を向けてみましょう。

山梨は自然のなかに位置すること
もあって、開発という言葉に敏感で
す。また、経済の低迷ということ
もあって、鈍化しています。たとえ
ば、山梨県は交通ネットワークの整
備を進めていますが、どうぞ覧に
なっていますか。



古屋 道路は、国づくり、社会づくりの基本ですね。たとえば、低開発国において、いくら資本を投入しても、道路が整備されていなければまったく意味がありません。工場を造っても、アクセスがなければ機能しません。今、低開発国ではこのことが大問題になっていますよね。

早野 道路は地形的条件を超えて、地域を結び、人を結び、諸機能を結び、充実させていきます。社会を開いていきます。

古屋 道路に関しては、ひとつの認識があります。日本は第2次世界大戦において、徹底的に破壊されました。それを世界が驚くほどに、短期間で復興し、かつ成長させました。これは何によるものなのでしょう。ひとつは、教育、文化の力だということです。

早野 教育、文化は、破壊される性質のものではありませんよね。

古屋 日本は教育を尊び、投資をしてきましたが、この教育が基となって復興ができた、というわけです。これは、確かなことでしょう。

しかし、もう一つ、復興の要因があるのです。それは、社会の基盤をなす治山、治水、道路や堤防などの歴史的資産は破壊されずにいて、これによって国はよみがえった、ということです。戦争で破壊されたとはいえ、こうした基盤が破壊されたのは1パーセントほどでした。幸いに、多くが残りました。

早野 焦土と化したものの、道路は残った、堤防も崩れ落ちることはなく、耐えた、というわけですね。

古屋 治山、治水、道路や堤防の整備は、長い歴史のなかで、ひとつひとつ、先人が培ってきた財産です。教育や文化への投資と同様に、基盤整備への投資は、戦争を超えて有効でした。

この二つが、日本の復興と成長の要因だということができるでしょう。したがって、道路整備事業のありようは、財政事情はありますが、国、社会の継続的発展に大きな影響を及ぼしますよね。

日課の碁の醍醐味とは「正直」は熟睡の秘訣

早野 ご多忙ゆえに、時間を大切に、かつ、充実させるというのが先生の信条ですが、これはなにも、仕事ばかりではない、趣味にも活かされていますよね。

碁は達人、名人の境地であると、もっぱらの評判です。毎日どんなにお疲れでも、定刻になるときまっただちに碁会所に現われるとうかがっています。

古屋 毎日夜8時までは事務所で仕事をしていますが、そのころになりますと、なんですか、わさわさしてきますね。碁会所は10時までですから、気がせいってきます。余暇時間のほとんどは碁に熱中していますが、ストレス解消でもあるのでしょうね。

早野 一日を碁で締めくくられる、というわけですね。お宅でも、インターネットで碁をされるという打ち込みようだそうです。

古屋 パソコンでは常に3,000人ほどと対局できるのですよ。楽しみでしてね。家に帰っても、つい、部屋に籠りがちです。女房は承知をしまして、帰宅時間に合わせて、寒いときにはあらかじめ暖房を入れておいてくれます。

早野 まるで今どきの子供のようではありませんか。愉快ですねえ。

古屋 ですから、まあ、時に女房の

足音がしますとね、すかさず画面を変えて、まるで勉強でもしているかのように、判例を打ったりしてみたりですね、するわけです。

早野 それほどまでになさる碁の真髄、醍醐味というのは何でしょう。

古屋 さて、難しいのですが、人生においては、ひとたび挫折をしますと生涯にわたってそれを引きずることになります。碁は、その日その時、一局一局が、いつもまっさらである、ということでしょうか。

碁を打っていますと、自分が不利な局面に立たされることがありますよね。何とか打開すべく、我慢をし、奮闘します。ところが、これまでだ、というときは投げますね。投了します。ところが、人生においては、そうはいきません。人生は、一度です。しかし、碁は、いつも新しく自分を迎えてくれます。

早野 ううん。勝ちの碁も、負けの

碁も、醍醐味があるわけですね。

古屋 お蔭様で、パソコンが上達しました。

しかし、パソコンに向かいながら、税務や法律を合体させて、これからの経営に役に立つ文献をまとめてみようか、などということを構想したりもするようになりました。

早野 まさに、青年時代、会社勤めをされていた頃の、自己申告じゃありませんか。碁は、先生の生活に密着しているのです。

先生は、いわゆる「選ばれた人」と申し上げてよいでしょう。いつも学ぶことは多いのですが、先生の信条、日頃から心していらっしゃることをご披露していただけますでしょうか。あるいはまた、ご家庭での教育のあり方などをお聞かせいただけますでしょうか。

古屋 ひとつは「正直」でありたい、ということです。ありのままでありたい。

い、たと思わしくないことがあっても、失敗しても「正直」でありたいですね。嘘をつく、また嘘をつかなければなりません。

さらにいうならば、「正直」であることは、熟睡できる人生を送る秘訣でもあります。

早野 簡単なことが、じつは最も難しいのですよね。

古屋 人生の価値といいますか、また、意義といいましょうか、それは、人生において「何を得たかではなく、得たものをどのように大切にできたか」、ということにかかっているのではないのでしょうか。何が大事だ、ということではないのです。

早野 人との出会いも、日々の仕事も、「ふるさと山梨」もそうですね。大切にしなければならないものは、何処にあるのではない、目の前にあるのですよね。

[構成：三神 弘]



日韓の友好・相互理解の契機

サッカーの祭典ワールドカップ杯が、6月に日本と韓国で共同開催される。オリンピック以上の規模といわれ、世界150カ国以上でテレビ放映され、サッカーファンを熱狂させるビッグイベントである。日本と韓国で共同開催されることになった背景の一つには、日本と韓国の世界における政治的・経済的な評価があった。つまりオリンピックと万国博覧会を両国は開催した実績がある。そして今度は史上初の二カ国共催、しかもアジアでは初の開催でもあり、世界の注目の的からであった。

さらに今年は「日韓国民交流年」という記念すべき年にもあたる。新年に寄せて両国の首脳は、それぞれ相手国の国民に向けてメッセージを発表した。小泉純一郎首相は「日韓の国民一人ひとりが日韓の強固な友情と信頼の絆を世界に示して欲しい」と述べ、金大中大統領も「対話があるところに理解があり、理解があるところに協力がある」と、それぞれが友好関係の強化を期待した。今年是一年を通じてさまざまな交流イベントが行われており、これによって両国の相互理解がさらに深まり、関係が強化されることは間違いない。

ワールドカップと日韓の因縁

ワールドカップ杯には世界190カ国以上の国と地域が予選に参加し、これに勝った29カ国と前年度の優勝国フランス、そして開催国である日本と韓国を加えた32カ国のチームで争われる。ワールドカップ杯はナショナリズムの高揚と国威発揚の場でもある。

山梨学院大学
経営情報学部教授

宮塚利雄

したがってこの大会に参加して優勝することは、その国の名誉にもつながる。日韓共に開催国の意地をもって予選リーグを突破して、16位内に入りたいところであるが壁は高く、これまで5回出場している韓国は一度も予選リーグを突破していない。

ところで韓国がワールドカップ杯に初めて挑戦・出場したのは、朝鮮戦争の傷痕も癒えぬ54年の第5回スイス大会だった。この大会への切符を手に入れるためアジア地域予選を、日本と韓国が戦った。これがサッカーにおける「日韓激闘史」の始まりとなったが、ホーム・アンド・アウェーにもかかわらず、韓国の李承晩大統領が日本選手への韓国入国を拒否したために、二試合とも日本で戦うことになった。日本に負ければ「玄界灘に身を投げる」覚悟の韓国は、第一戦で日本に初ゴールを決められたが、後半に猛攻を浴びせ5-1の大差で逆転勝ちし、第二戦は2-2の引き分けとなり、

韓国が1勝1分けで地域予選を勝ち抜き、出場権を得たのである。しかし初めて大会に出場した韓国は、「マジック・マジヤール」と呼ばれたハンガリーと対戦し、0-9という大会最多のゴール差で惨敗し、続くトルコとの対戦でも0-7と大敗した。

期待される経済効果

ワールドカップ杯における経済効果への期待は日韓共に大きい。世界最大級のスポーツの祭典であり、一定の経済効果があることは確かである。不況に沈む日本経済だけに「回復への起爆剤に」との思いがある。電通総研の昨年末試算によると、スタジアム建設などを含めたワールドカップ杯の経済効果のうち、観戦客の宿泊費や家電の購入など、今後見込める関連消費の合計は8500億円程度。さらにこれが1兆8600億円程度の新たな生産を誘発するとしている。一方、韓国でも韓国銀行が大会期間中に韓国を訪れる外国人が生み出す付加価値で、国内総生産(GDP)が0.14%、実質経済成長率が0.11%それぞれ増加するとの調査結果を発表した。この調査によると外国からの客は24万7000人で、約12日間滞在し、一人が一日32万ウォン(約3万2500円)を使うと仮定した場合、支出総額は約9640億ウォン(約964億円)となり、原材料費などを抜いた付加価値は約7360億ウォン(約736億円)に上る。また、全就業者の0.27%に当たる約4万4000人の雇用を生み出すという。

韓国はワールドカップ杯に続き9月29日から釜山でアジア大会が開催され、国威発揚と経済発展へのさらなる契機となることを期待している。

「どんなことも7世代先まで考えて決めなければならない」という格言がある

(アメリカ・インディアンの言葉よりも深い言葉より)

今、私たちは何世代先まで考えて行動しているだろうか。大上段に構えるわけではない。時流に即した必要な分別だ。今回は、ダイオキシン等の有害物質をいっさい排出しない最先端の溶融炉方式で、ごみの資源化を進める会社取材した。

千代田湖からほど近い、甲府市平瀬にその施設はある。廃棄物再生システム「コークスベッド式溶融炉」。ごみを限りなくゼロにという信念のもと、9年の歳月をかけて開発に取り組み、ついに完成させた。鉄を溶かす技術を応用したこの溶融炉は、ごみ問題の画期的な解決方法として海外からも注目されるもの。1600～2000℃の高温でごみを溶かし、有価物に再資源化するシステムだ。炉に搬入する物は、廃棄物を処理した後に残る焼却灰と、リサイクルできずに残った破碎残渣。これに副資材としてコークスを混ぜる。すると溶融化によって有価物「スラグ」が再生されるのだ。ガラス質で無害の「スラグ」は砂の代わりに路盤材や土

木建設資材として再利用でき、すでに(株)早野組など数社と利用法を検討中。「初めて炉を動かし、スラグが再生されて出てきた時は、鳥肌が立つほどうれしかった」と太田一社長が話す。大阪の太陽マシナリー(株)と共同開発した当溶融炉は民間では全国3番目、コストが他の3分の1で、かつ最大の効果を得られるシロモノ。ダイオキシンの発生を防ぐコークスベッド方式をはじめ、排ガス浄化装置やクーリングタワーも、高性能でムダのない型を採用して



●株式会社 中部環境開発●

1987年、有限会社中部環境開発として設立。94年に株式会社に組織変更。資本金1,300万円。創業以来、廃棄物の収集・運搬をはじめ、資源リサイクルや生ごみリサイクル、分別解体工事等、一貫してごみの資源化に取り組んできた。甲府市平瀬町に完成した廃棄物再生システム「コークスベッド式溶融炉」がこの4月から本稼働する。

〒400-0043 山梨県甲府市国母6-5-1
☎055-226-7574(代) FAX055-223-1090



株式会社 中部環境開発

代表取締役

太田 一 氏
おた はじめ

いる。コスト云々より人としての資質の問題。現在、県内15ヶ所の公共焼却施設の焼却灰は、すべて越境して県外の最終処分場に搬出しているのが現状。ところが2008年までにはそれらもいっぱいになってしまうといわれ、全国的に埋め立て処分場の不足は深刻化している。県内の公共焼却施設から一日に出る焼却灰の量はおよそ70トンであり、24時間で93.6トンもの処理能力を持つ当溶融炉は、100%の自県内処理も可能だ。東京都の場合は、4年後までには23区すべてこの方式にすることが決定している。「神奈川や岐阜、長野など他県からの要請は増える一方で、じつは山梨はまだ半分の自治体からしか受けていない」という。自分のところのごみを外へ持ち出し、よその土地へ埋めてしまう。それはコストの問題ではなく、資質の問題ではなからうか。「どんな小さな人口でも孫の代に水を汚してはいけないから、と環境対策を優先する自治体もある」そうなのに。

「今後はさらにこの技術を広めて、循環型社会に貢献していきたい」と語る太田社長。視野はつねに未来に(何世代も先に)あり、躍進企業のトップならではの隆とした姿が印象的だった。



春ウララ… あなたに 季節のお届けもの



事業内要

- 一般貸切輸送（一般、常用、専属）
- 重量品輸送（取り付け、取り外し搬出入作業）
- 入出荷請負（荷造り、梱包作業、出向代行業務）
- 引越輸送（事務所・工場の移転、ご家族のお引越等）
- JRコンテナ輸送取り扱い
- 一般貨物全国定期便
- 宅配便
- 航空便取り扱い
- 生命保険の募集及び損害保険代理業

流通の基本を大切にその先へGO

運甲府通運株式会社

本社 〒409-3845 山梨県中巨摩郡田代町流通団地3329-1
TEL.055-273-0611 FAX.055-273-9332
田代営業所 〒409-3845 山梨県中巨摩郡田代町流通団地3211-14
TEL.055-273-5471 FAX.055-273-6277

サークル訪問

汗で育つ 感性が光る
街にめぐる文化探訪

漢詩を通して人生観や自然観照を学ぶ仲間たち



めざしているのは、 清新平明な漢詩づくり

山梨漢詩会

「漢詩」と聞くと、漢字ばかりが並ぶ文章に学校時代、苦戦させられたのを思い出す。そんな人も多いのではないだろうか。ところがその漢詩を創作してしまうグループがいる。県内の愛好家で組織される「山梨漢詩会」だ。主宰は、内藤利信さん。すでに結成されていた山梨県良寛会漢詩部に、内藤さんが県内各地で受け持った漢詩講座の受講生達が加わって、平成10年に発足。富士山を詠んだ詩などを引用しつつ漢詩の世界へやさしくいざなう指導法が功を奏して、メンバーは次第に増加。現在、8つの支部で活動している。

「李白や杜甫といった壮大な景観を抽象化するのでなく、日常のふとした感動を書き留めるつもりで清新平明な漢詩づくりをめざしている」と内藤さん。短歌と俳句の両方の要素を併せ持つ漢詩には「一度始めたら止められない魔力のようなものを感じる」（会員曰く）のだそうだ。毎年10月には会誌「山梨漢詩」を発行。昨年秋には中国四川省への漢詩紀行も実施し、著名詩人らゆかりの土地を訪ねた。「漢詩の魅力は人生観や自然観照を学べるところ。また自分の観方を表出できるところ」と話す内藤主宰。勉強会では「音

韻や平仄が漢詩のハードルを高くしている」として、まずは詩語（2字や3字の熟語）を使う作詩法を薦めているが、新しいことを習うのに億劫がらず腰を据えてじっくり取り組めるのは、きっと齢を重ねて気持ちにゆとりのある人々だからこそ。私も会員の皆さんと同じくらいの齢になった時、こんなふうに豊かな心で身の回りを眺められたらナ…… 会誌をめくりながらそんな思いに駆られた。何かに夢中になっている姿というのは、端からみてもいいものだ。

山梨漢詩



発刊記念集会

◆山梨漢詩会◆

山梨県良寛漢詩部を母体に各地域の漢詩愛好団体が加わって、平成10年に結成。現在65名。メンバーの年齢は60代から70代で、男性が3分の2を占める。甲府・諏訪・塩山・勝沼・双葉・長坂・中道の8支部で活動を展開。月例の作品発表会や合同総会、会誌発行の他、中国への漢詩紀行も実施している。

問い合わせ 主宰 内藤利信
連絡先 〒407-0052 山梨市円野町下井1638 ☎0551(27)2223



昨年10月中国四川省へ漢詩紀行にも行った

1. デフレを切り抜けるのは
既存価値破壊による新価値創造だ。

価格破壊という言葉を知っているが、デフレによる価格下落はますます激しくなっている。これ以上日本企業が価格をいじくり回したら、経済は決して良くならないだろう。商品のアイデンティティというのはその存在感であり、存在感とは商品の持っている品質のグレードや差別化からくる。商品のアイデンティティが無いから、値下げしなければ売れないのだ。価格破壊は、商品のアイデンティティもなく、次なる価値の新基軸を打ち出すことのできない敗者の戦略だと思う。

新価値基軸を提案するためには、各メーカーは、顧客のどのようなニーズに注目して、研究開発を行なうかという「選択と集中」を行なわなければならない。「技術の日産」と標榜していた日産は、悪しきデザインを乱発し、ルノーと提携せざるを得なくなった。90年のシーマのヒットが最後だっただろう。「自動車ナラバ、基本価値は“走る技術だ”」という感覚にとらわれたが故に、大きく道を見誤った。こうしたことを、近視眼的マーケティング(マーケティング・マイオピア)と呼んでいる。パジェロで成功した三菱は、四輪駆動車を小手先程度に街乗り仕様にして、当初は成功をおさめたものの、あっという間にトヨタやホンダにお株を取られてしまった。その分野でトップシェアだったにも拘らず、消費者のニーズが何なのかを把握していなかったことが問題だったのだと私は考えている。つまり消費

『価格破壊ではなく、
既存価値破壊・
新価値創造へ』

山梨学院大学商学部 助教授

青木茂樹

者は「大きな車」が欲しかったのではなく、「ファミリーや友人達との快適な移動空間」としてのユーティリティを望んでいたというニーズに気がついていなかったのだと思う。

2. 新価値創造が広域的ブランド展開のプラットフォームとなる。

今や人気のスターバックスコーヒーは、数年前までシアトルの小さなコーヒー問屋でしかなかった。またアメリカ人にとって、コーヒーはアメリカンコーヒーであり、ただ同然のものだった。これに生クリームをホイップして、好みに応じてシナモンや蜂蜜を加えるという新価値商品の提案、そして、お客様の好みに応じて、一人で来て読書やパソコンを打てるテーブル、友人と語らうソファなど、心地良い空間価値を提案した。これにより、アメリカ人は、それまでただ同然であったコーヒーに3ドル、4ドル払うようになった。まさに新価値創造である。

スターバックスは、このような展開に成功したからこそ、バンズ&ノブル(本屋のチェーン店)と提携して本屋の中の喫茶店を展開したり、ユナイテッド・エアラインなどのコーヒーに採用されたりと、ブランドを手がかりとして広域的展開を見せている。飛行機で飲むコーヒーにブランドを意識したことなんて多くの方が無かったのではないかな。飛行機のメニューにスターバックス・コーヒーと書かれたことで(普通のブラック・コーヒーだが)、オーダーが随分増えたという。何もないと考えられていたところに価値付けをする。既存のチャンネルばかり頼ることなく、こちら辺から新価値基軸の提案、そして新規チャンネル開発が我々にはできないだろうか。まだまだ隙間があるような気がしてならない。

3. 売る仕組みではなく、
売れる仕組みを考えよ

仕事柄、いろいろな出版社から山のように本の刊行案内がくる。ただでさえ、時間が無い研究者が多いのに、相も変わらず案内を送りつけてくるとは、他人の都合に拘わらず土足で部屋にあがってくるようなものだ。大学のゴミ箱をみれば封も切らずに捨てられた封筒が山になっている。なぜこれだけ情報が氾濫し、さらには各々のニーズが多様化して、これらが分析可能となっているのに、既存ビジネスの手法を変えないのか不思議に思う。自分の常識、自分の都合でビジネスをやっている限り、新価値基軸は生まれまい。モノが売れないのではなく、売ろうとしないのではなかろうか。

「柴犬の仔が生まれたから飼わないか」

叔父(故早野欽介氏)から電話があったのは、昭和58年の8月だった。叔父の掌の上に乗った、まだ目も開かない三匹の中から、鼻の下がちょっぴり黒い愛敬顔の雄を選んだ。それが垂狼との初対面だった。

建て替えの最中だった家が完成した11月から、垂狼は家族の一員となった。玄関の脇に、一坪程を柵で囲った庭付きの犬小屋も作ってもらった。生後3カ月程の垂狼は、まさに生命力の塊だった。舞い散る銀杏の落ち葉を蹴り散らして庭を走り回り、疲れを知らなかった。隣家との境のブロック塀を飛び越すようになると、引き綱をつけての朝の散歩が私の日課となった。首輪に綱をつけるや否や強い力で引っ張って柵を飛び出し、ぐんぐんと先に立って歩いた。好奇心一杯にあちこちを嗅ぎ回り、おしっこでマーキングをした。通った事のない道を歩き、初めて目にする街の風物は、私にとっても楽しいものだった。武田神社の北の山道を行けば、春は鶯が囀り、四季折々の花々に出会うのも心が和んだ。困ったのは(イコー、イコー)と散歩を催促する鳴き声が、段々に早い時間になって来た事だ。6時が5時半になり、5時になり、遂には夏でもまだ暗い三時頃から鳴くようになって来た。これには参った。仕方なく一度起きて、綱をつけて柵から出し、銀杏の木に繋いでおくと2時間ほどは待った。

あれは垂狼が7歳の夏だった。いつものように木に繋いでおいたのだが、綱が解けてそのまま垂狼の姿

「生命の移ろい」



一木麗子

日本ボーテジ協会理事・指導員

が見えなくなっていた。それ迄も何回か柵の扉を明けた途端に走り出して、道路へ飛び出して行った事があった。追い掛ければ逃げて絶対に捕まらない。諦めて放っておくと、お腹が空いた頃に自分から帰って来た。今度もそのうち帰って来るだろうと思っていたが、夕方になっても、翌朝になっても帰らない。捕まったのか車にぶつかったのか。保健所に電話したが土曜日で応答はない。日曜には夫と手分けで散歩で歩いたことがある道を捜し回った。手掛かりはなかった。主のいない犬小屋を見ては、垂狼の存在の大きさを改めて知った。月曜の朝保健所に電話すると、動物管理センターに連絡するように言われる。いた!。近くの家の庭に入り込んで捕まえられ、通報されて収容されていた。夫と二人ですぐに引き取りに行く。カプセルホテルの様なゲージの中に一匹ずつ数匹の犬が収容されていたが、その中に垂狼がいた。与えられたドッグフードには口もつけていなかった。夕方までに飼主が現

れなければ処分される所を危機一髪だった。一泊3,000円、3日分で9,000円を支払って家路に向かう車の中で、助手席の夫の足下に座った垂狼は、ガタガタと震えながらクーン・クーンと鳴き続けた。(コワカッコヨ。スグオウチヘカエルツモリダッタンダ)と言っているかのように…。それ以来、垂狼との絆はいっそう強くなった。

10才を過ぎた頃から老いが現れ出した。目が白濁し、毛が抜けて痒がる。散歩の足取りが遅く、力が無くなる。獣医院に通い薬を飲ませ続けた。平成9年1月からはキッチンのストーブの側にダンボールで寝床を作った。散歩の距離は段々に短くなり、庭に出すとよたよたと池に落ちた。ゆるいウンチをどこにでも何回もする。ウンチの上にへたり込み、起き上がろうともがいて自分にも床にもこすりつけた。家中が臭くなった。ペット用の紙おむつを買って来て一息ついたものの、これが10枚で1,300円と高値である。孫が残して行った紙おむつにしっぽの穴を開けて使った。10月になると、夜中に鳴いて数回私を起こした。さすがにやると静かになる。食べ物も牛乳や半熟卵を匙で口に流し込んでやるようになった。そして11月2日の午前10時、ふうっと深い息を吐いて静かに呼吸が止まった。

翌日、夫が裏庭に掘った穴に、埋葬した。

垂狼は生命の移ろいをまざまざと見せてくれた。また仔犬を飼うように勧める人もいるがその気はない。私達夫婦も既に、老いの領域に足を踏み入れているのだから…。

INFORMATION

貨物事業の健全な経営のために

貨物自動車運送事業とは？

性格 国民生活や産業活動に欠かすことのできない貨物の輸送サービスを提供する事業であり、国民生活の向上、社会経済の維持発展に欠かすことが出来ない公共的な事業として重要な役割を担っています。

義務 公正な競争のもとに、創意と工夫を活かした安定的で質の高いサービスの提供が求められます。



経営者として守るべきルール

(1) 健全な経営

① 事業計画等に沿った的確な事業遂行が求められます。業務を行うためには、あらかじめ事業計画や運賃・料金、運送約款を定めて行う必要があります。事業計画等を変更する場合は、所要の手続きが必要です。

② 法令遵守（労働基準法等関係法令も含む。）が課せられます。他人に運送事業の名義を貸し運送行為をさせることや自家用トラックを利用した運送行為は行うことができません。

(2) 輸送の安全確保・環境問題への対応

輸送の安全確保や環境に配慮した事業を展開することは、経営者の責務といえます。

(3) 運行管理者、整備管理者、運転者の選任・教育

事業を運営していくためには、運行管理者等の選任・教育を必ずしなければなりません。選任・教育を怠った場合は、行政処分の対象となります。

ルール違反をすると！

多発する消費者等からの苦情・事故情報や交通事故等により行政による監査が実施されます。その結果、ルール違反が判明すると行政処分若しくは刑事告発を受けることとなります。

適正化事業実施機関の活用

貨物自動車運送事業法に基づき、事業者のみなさんの遵法意識の高揚や貨物自動車運送に関する秩序の確立を図るため、民間団体の自主的な活動機関として全国に「適正化実施機関」を設置しております。

甲府適正（株）
本社：中巨摩郡田代町流通用地329-1 TEL055-273-0611

早野組は、県内総合建設業で初めて環境ISOの認証を取得しました

早野組は平成13年9月28日付けで、環境マネジメントシステムの国際規格である「ISO14001」の認証を、本社・東京支店・中部支店・モータープールにおける、建築物・土木構造物の設計・施工及び間接部門の事業活動に関して取得しました。ISO14001の認証は、県下総合建設業としては初の取得となります。

平成12年6月19日の創立記念日に社長が「キックオフ宣言」をし、環境側面の抽出等の具体的作業にとりかかり、環境マニュアル及び規定類を作成し、平成13年1月1日より環境方針を制定し、環境マネジメントシステムの運用を開始しました。以来環境管理室を中心にオフィスの省エネ活動の推進、現場を中心とした廃棄物の削減、騒音・振動対策に取り組む、日本品質保証機構（JQA）による予備審査、ファーストステージ審査、セカンドステージ審査と1件の不適合もなく、「合格」となりました。

認証取得は当社の環境マネジメントシステムにおける第一歩であり、今後の継続的改善が重要となってきます。

平成10年3月に取得した品質保証の国際規格ISO9001と共に当社のマネジメントシステムとして、全社員が全力で取り組んでまいります。



当組ホームページはyahooの検索に「早野組」と入力しますと一発で検索できます。

（株）早野組 本社：甲府市東光寺1-4-10 TEL055-233-1111
http://www.hayano.co.jp

INFORMATION

特別仕様！！クルーガー V
イプサム 240、series

特別なボディカラーと上質な専用エクセースシートをご用意。先進のDVDボイスナビゲーションをプラスした魅力の一台の登場です。

- ◆DVDボイスナビゲーション
- ◆本革巻き3本スポークステアリング
- ◆ロゴ入りインストールメントパネルオーナメント
- ◆17inchアルミホイール
- ◆エクセースシート表皮

クルーガーV 特別仕様車
“ナビパッケージ”
価格本体価格 280万円～



シックにワイルドに。特別なイプサムで、街は大人のスポーツフィールドになる。

- ◆スポーティーメーター ◆フロントフォグランプ
- ◆カラードサイドプロテクションモール&バックドアガーニッシュ
- ◆16inchアルミホイール
- ◆シート&ドアトリム表皮ダブルラッセル
- ◆黒木目調パネルドアスカッフプレート
- ◆ワイヤレスドアロックリモートコントロール

イプサム 特別仕様車
240i “Limited”
価格本体価格 223万円～



ぜひお近くのビスタ店にお越しください。

トヨタビスタ山梨（株）
本社：甲府市朝風3丁目10-21 TEL055-232-5511

昭和住宅公園展示棟
1月2日より、リニューアルオープン！！



シンセ・ノイエS（寄棟屋根）

はじめてご覧になるというお客様や、再度ご入店をいただいたお客様など、1月2日のリニューアルオープン以来、皆様にご好評をいただいております。

特徴として

- ①電動昇降機能付掘削車のある和室
 - ②親子で楽しめるゆったり大型円形ワイド浴槽
 - ③電動昇降吊戸棚を採用した使い易いキッチン
 - ④ベンチで夕涼みが楽しめる広いベランダ
 - ⑤収納たっぷりの子供部屋
 - ⑥自然石の質感を表現するジュエルトップ塗装外壁
 - ⑦トヨタホームのすべてが分かるテクノロジーコーナー
- etc...

数え切れない程の魅力のある建物を、是非一度
ご覧下さい。社員一同心よりお待ちしております。



トヨタホーム山梨（株）
本社：中巨摩郡昭和町西1043 TEL055-275-1234 FAX055-275-7806

甲斐国と安藤広重の関係は
残された名画とともに
深いつながりがある
その真相に迫る

安藤広重と甲州

(あんどうひろしげとこうしゅう)

上野 晴朗

うえの はるお
1923年山梨市生まれ。歴史家・作家。山梨県立図書館郷土資料室を経て67年から文筆活動に入る。著書に「甲斐武田氏」等多数。



富士三十六景の内 大月窟



甲斐猿橋の国 広重画



甲州大社御岳山の国 広重画



豊国描く初代広重

私はその昔、昭和32年(1957)11月、山梨日日新聞社長の野口二郎氏の依頼で、安藤広重が安政5年(1858)9月6日歿して百年になるというので、それを記念して広重名作展をやってはどうかといわれ、承諾して山梨県民会館の大講堂を使い、広重名作展を一週間催した。

当時私は浮世絵研究家の橋崎宗重氏や、同じく遠藤金太郎氏と親しく付き合っていたから、二人をお招きして講演会も開いた。

安藤広重(一立斎)と甲州の関係は、特別に深いものがある。広重は「歌川列伝」によると、江戸八代州河岸の定火消同心、安藤源右衛門の子として定火消屋敷に生まれ、幼名を徳太郎といい、のちに重右衛門、徳兵衛などとも称した。文化6年(1809)13歳で父の職を継いだ、そのかわり、歌川豊広の門に入って、浮世絵を学び、歌川広重を名乗るようになった。広重と甲州の関係は、

自筆の「卯月二日目出度発足……」と書き出された有名な甲府行日記「丑年卯月日之記」に詳しい。

表題によると天保12年(1841)の4月20日に始まり、同23日に中断し、ふたたび11月13日に始まって、同22日に終わっている。その内容を追うと、広重の入甲の主な目的は、甲府の道祖神祭りの幕絵を描きに来たのである。

またその間に友好関係を結んでいた甲府の知人の肖像画を描いたり、道祖神幕の世話人宅の襖絵などを描き、またその間には甲府の芝居見物をしたり、さらにたまには景色を求めて、ずいぶん遠くまで足を伸ばし、御岳の奥にまで入っている。

さらに日記を精読すると、広重の入甲は決して初めてではなく、数回は来ているようである。とくに肴町の村幸こと、村田屋幸兵衛との関係が深かった様子が滲んでいる。とくに村幸には、幸兵衛の父幸太郎を

描いた肉筆画が秘蔵されていた。村幸は当時肴町で書店を経営、甲府で全盛を誇った村田屋一家(蔵宿村田屋善十郎)を中心に、豪奢な生活を送っていたのである。

また村幸は国芳の「甲州一蓮寺地内正ノ木稲荷之図」と、三代豊国が描いた「甲州善光寺境内之図初午」の三枚続きの絵の中に、その家族、婦人と娘がモデルとなって華麗に登場しており、当時一流の浮世絵師達と村幸は深いつながりがあったのである。広重も勿論そのうちの一人だった。

そしてさらに浮世絵師達と、甲府の関係者の結びつきを辿ると、八日町の升田(満寿太)や魚町の松亭などが浮かび上がってきて、当時の甲府きっての粋な文化人達が、府中の繁栄を背負って、お互いに名だたる絵師や役者などと深い交流をもち、甲府の爛熟した文化を創り上げていたのである。

甲府の道祖神幕というのは、その文化の粋を集めたものと見れば判りやすい。柳町の高野孫左衛門家には、柳町三丁目に張りめぐらされた道祖神幕の下絵39枚が残らず保存されている。もちろん私は展覧会に借用してきたが、これで見ると、柳町三丁目だけで、おおよそ二軒に一張りの割で幕が張りめぐらされていたのである。

甲府の下町ではそれこそ金に糸目をつけず記録にあるだけでも、初代広重、二代広重、岸連山、月岡芳年、一猛斎芳虎などの名高い絵師を、各町々で競争で呼びよせて、その派手さを競ったのである。

「甲州年中行事」から拾ってみると「千羽雀(連雀町)、江戸名所(初代広重)緑町1丁目、頼朝一代記(淵里)緑町2丁目、田舎源氏(二代広重)柳町1丁目、京都名所(岸連山)柳町2〜3丁目、太功記(芳年)柳町4丁目、和漢名将伝(芳虎)八日町1〜2丁目、忠臣蔵(淵里)魚町3丁目、地は何れも麻を用ひ、幅一間、長さ大なるは六間より八間に至る。連雀町は時代頗る古く、その詳細を知るに由なし」と綴っている。

つまり安藤広重はこの幕絵を描くために、度々入甲しているのであり、卯月日之記にあるように、「幕霞漸くきまる」「幕すみきき」「幕不残出来……」などという言葉とともに、古き好き町甲府が彷彿と蘇ってくるのである。



東海道五十三次の下絵の一枚(高野孫左衛門氏蔵)

私は遠藤金太郎氏所蔵の緑町の道祖神幕、「目黒不動の滝」を借りてきて会場に飾ったが、その絵に魅せられて何度もその前に立ちつくしてしまった。遠藤氏は初代広重の名品だと強調されたが、ところがその絵を見た橋崎宗重氏の方は、二代の作ではないかと首をかしげられた。私は経験豊かな遠藤氏を支持し、初代として会場に飾ったけれども、むしろかしい課題ではあった。

それにしても世界的風景画家として認められた広重の目に、甲斐の山

河は一体どのように映ったのであろうか。「卯月日之記」を見ると、「犬目上り上鳥沢まで、堀り馬一里十二町乗り、鳥沢にて下り、猿橋まで行程二十六町の間、甲斐の山々遠近に連り、山高くて谷深く、桂川の流清麗なり、十歩二十歩行間にかはる絶景言語にたへたり、拙筆に写し難し。猿橋より駒橋まで十六町、谷川を右になし、高山遠近につらなり、近村の人家まばらに見えて、風景たぐひなし、猿橋の向ふ茶屋にて中食、やまめ焼びたし、菜びたしなり……」

と綴っている。また甲府盆地に入ろうとする勝沼の近くでは、

「此辺より江戸溝中一むれと連だつ。右は山にて山の腰を行く、左に谷川、高山に巖石そびへ、樹木茂り、向ふに白根ヶ岳、地藏ヶ岳、八ヶ岳高峰見へて古今絶景也」

と結んでいる。このように広重の視覚にとらえられた甲斐の山河は、ただならないものがあつたのである。

私はこの展覧会に東京の修多羅亮澄氏から、新発見になる、文政6年(1823)甲州実景写生帳二冊と、天保2年(1831)甲州大月写生帳一冊というのを借りてきて飾った。発見時に偽物ではないかとさわがれたが、全部写真に撮り、研究を進めてみると、怪しいところはさらさらない。とくに日記などの内容から追っても、巨匠の人格が匂ってくる。

勿論、巨匠の生涯だけに、簡単にはきまらないものが多く手を焼くが、せめて甲斐国との関係だけは鮮明にしておきたいと思う。

遅咲き若冲

伊藤若冲（いとうじゃくちゅう）という画家の名を、どれほどの人が知っているだろうか？

いやはや、まったくのところ、こんな画家が、いや、絵師が、江戸時代にいたなんて！

と、ビックリマークをいくつもつけてしまいたくなるような絵師、伊藤若冲。今回は、その若冲の絵を読む。

同時代では円山応挙に次ぐ名声を得ていたというから、押しも押されもせぬ名絵師だった。もっとも若冲、古典からモダンまで、その画風にさまざまな顔をもつ絵師だったので、江戸時代の終わりごろ死んだあと、なんと大正時代になるまで本格的な展覧会は開かれなかった。とにかく、鬼才、異才。時代をいくつも飛び越える感受性を持った絵師だったから、時代がふたたび若冲に追いつくまでに、ずいぶんと時間がかかったのだ。

模写で培った技量

京都錦小路の青物問屋櫓屋の長男として生まれた若冲。毎日、店先に並ぶ野菜の山を見ながらすごした少年だった。幼いころから近くにあった寺、相国寺のお坊さん、大典顕常さんに絵画の手ほどきを受けた。後に、千本もの宋元画を模写したという。この模写が、若冲の腕をめきめきと上げさせた。宋元画にはない画題を選ぼうという欲望を起こさせたのも、模写のおかげだろう。

三十九歳のとき、継いでいた家業、青物屋を次男・宗嚴にゆずり、画業

伊藤若冲（一七二六～一八〇〇）
さぼてんぐんけいすふすま
「仙人掌群鶏図襖」寛政二年（一七九〇）
重文 西福寺

寛政二年（一七九〇）

重文 西福寺

ボク的美術品観察日記

山本育夫

19

に専心することになる。集中的に大作に挑んだのは四十代から五十代前半の十数年だったという。で、今回紹介するのは江戸時代の金碧障壁画の最高峰をなすといわれている逸品、「仙人掌群鶏図襖」である。なんと若冲、七十四歳の作。

かわいいひよこたち

この襖絵。大阪の榮種問屋吉野家の菩提寺の襖に描かれたもの。元々は自分が好きで描いていた若冲だが、晩年は生活のためにも描いたようだ。この襖絵もその種のものだろう。

まず、仙人掌を描いたというところが新しい。それに、江戸時代に仙人掌があったのだということが驚きだ。お得意の画題、鶏の描写はさすがである。襖六面のうちの四面に、雄鳥四羽、雌鳥三羽、ヒヨコ七羽が描かれている。ヒヨコはどこにいるのか、と探してみると、雌鳥の背中や、おなかに潜り込んでいたりして、実にかわいい。

しかし、なんといっても若冲らしいのは、一番右の襖に描かれているお尻丸出しの鶏だろう。普通、こういった襖絵にお尻丸出しは描かないものだろう。お客さんに対して失礼ではないか。

四季花鳥の図の美しさ

若冲が人気を得た画題がもう一つある。「動植綵絵」シリーズだ。たとえば「貝甲図」とか、「池辺群虫図」だ。「貝甲図」は、波打ち際に、ホタルガイやミスガイ、ホネガイなどおびただしい数の貝が描かれている。また、「池辺群虫図」のほうは、池近くの

ひょうたん畑に集まった、赤とんぼやアゲハチョウ、アブラゼミ、キリギリス、カブトムシ。その様子を見守るアオガエルの一団。さらにはその全体を見守る一匹のガマガエルの堂々たる姿などが描かれていて、実に楽しい。

それにしても、これだけの数の動植物、何か図鑑でも見ないかぎり描けそうもない。それよりもこうした動物たちを、しかもこれだけたくさんひとつの画面に描いてしまうという感覚そのものが、あまりにも常識を脱していた。いやはや、達人・若冲の、面目躍如たる一品である。



珍しい画題、仙人掌



かわいいひよこたち

若冲左二枚



若冲お尻丸出し鶏

若冲右二枚



動植綵絵 貝甲図



貝甲図部分



池辺群虫図カエルの一団



池辺群虫図カエルの親分

動植綵絵 池辺群虫図

日韓友好の絆を結ぶ

韓国的美を研究、紹介し

緑化に尽くした

浅川伯教・巧兄弟

高根町に「浅川伯教・巧兄弟資料館」が開設され、高根出身で韓国に渡り、韓国の美を研究、紹介し、また、緑化に尽くした兄弟の業績に接することができる。

兄・伯教は一九二三年(大正二)、韓国の美術への憧憬から韓国に渡り「白磁」と出会い、心を打たれ、やがて七〇〇カ所をこえる各地の窯跡を調査し、生涯をかけて研究、「朝鮮古陶磁の神様」と讃えられた。

若い時から人類愛や個性の尊重を提唱する「白樺」を愛読し、ロダンに魅せられ、本格的に彫刻を学んでもいた。その作品「木曜の人」が帝展

こんなところに山梨 思いがけない場面で ふるさと再発見

国の人と暮らし、民芸に親しんでいく。

研究成果である「朝鮮の器」は、近代化とともに忘れ去られていく器に、工芸のあるべき姿を見出したものだ。「正しき工芸品は親切な使用者の手によってしだいの特質の美を発揮するもので、使用者は或意味での仕上工とも

に入選したとき、取材記者に「朝鮮人と日本人との親善は、政治や政略では駄目だ、矢張り彼の芸術我の芸術で有無相通するのではなくては駄目だ」という言葉が光る。七つ違いの弟・巧も、やはり韓国に渡る。林業試験場に勤務し、養苗の種子を採集するために各地を訪ねるうち、韓

「い得る」との見解を記している。機械化、合理化への警鐘でもあった。

朝鮮民族美術館の設立も、兄弟の夢だった。日本民芸運動の父と呼ばれた柳宗悦らとともに呼びかけ、寄付を募り、ついにこれも実現した。

巧は、また、伐採による自然破壊にも立ち向かった。森林はいつまでも生命あるものでなければならぬと訴え、そのための造林法を提唱した。砂防植栽実験も行い、成功させている。

巧は養苗の講演先で急性肺炎を患い、四〇歳で死去した。その墓には「韓国の山と民芸を愛し韓国人の心の中に生きた日本人ここに韓国の土となる」と刻まれている。

「浅川伯教・巧兄弟資料館」は、日韓両国民の思いの結晶である。浅川兄弟の業績とともに、伯教・巧兄弟が培った韓国との交流の深さを知ることができる。

参考資料

高橋宗司「朝鮮の土となつた日本人」

江宮隆之「白磁の人」

旧暦六月二十日は三年の干支が替る日である。

この日半年間身心に着いた穢れや邪気を払って暑い夏を無事に乗り越え、やがて訪れる秋の収穫に健康で臨めるようにと願う行事がある。これを「夏越節句」といい、また旧暦六月は「水無月」であるので「水無月祓え」とも、さらに十二月三十一日の「年越祓え」と合わせて「大祓え」などともいう。

宮廷では平安時代から天皇・皇后をはじめ貴族たちの間で祓魂の儀式として行われていたが、一四六四年から七七年まで十年に亘って続いた応仁・文明の大乱の折一時中断し、京都の一部の神社で僅かに継承していたものを明治新政府の肝入りで全国の神社に復活を命じ、一般大衆の間に広く普及した。

ふるさとの心と味(12)

夏越節句から盆行事へ

民俗学研究者

志摩 阿木夫

穢れや邪気を払う手段として「形代」つまり、白紙を人形に切つてそれで身心を撫でて形代に身に着いた穢れや邪気を移し、それを川に流して身心の浄化を図ることと、もうひとつには茅の莖やよもぎ、菰などを混ぜて、直径二メートルほどの輪を神社の境内に設けて、人びとがこれをくぐることで身心の浄化を図る「輪くぐり」ということをする。

現在でも甲府では武田神社・穴切神社・甲斐奈神社のほか各地の神社で行われ、有名なのは甲府市の八王子社・塩山市の菅田天神社・富沢町の福士八幡社・箕崎市の若宮八幡社などである。

行事食としてのつくりものは地域によつてまちまちだが、穢れや邪気を追い払う呪力があるといわれる。匂いの強い植物や野菜とか赤い色を持つ植物や野菜を素材として作る煮物とかまんじゅうのようなものが中心となる。

夏越節句が終わると、旧暦七月は盆月となる。旧暦七月一日は「釜蓋朝」といって、この日地獄の釜の蓋が開いて、亡者たちがこの世の生まれ在る所を目指して出発するといわれ、七日は「七日盆」で祖霊を迎える準備(墓の掃除とか盆棚づくり)の日となり、十三日盆が迎え盆、そして十四日、十五日は祖

霊の供養のための団欒や盆踊りなど、を催し、十六日の送り盆となる。

「黄粉餅を供えて大地に感謝」
特に十三日から十六日の間には、はるばるこの世に訪れてくる祖霊のために精いっぱい料理や季節のくだもの、それに野菜や菓子などを供えて供養をするが、山梨では時節柄類とか「安倍川餅」を供える習俗がある。安倍川餅は駿河の安倍川の船宿で作ったことからその名があるが、この種の食べものはそれ以前からあったいわゆる「黄粉餅」であるから安倍川とは関係がなさそうであるが、黄粉餅といえは黄の色は大地を表す色ということ、祖先が築いたこの大地に感謝し、さらに繁栄することを祖霊に祈る意味の供えものと思えば、理のあるものといえる。

明治六年に日本で現在の暦の「太陽暦」を採用して以来、旧暦の諸行事が季節に合わなくなつて、甲府盆地周辺の夏越節句も盆行事も概ね一カ月ほどのズレを生じているが、それにしては夏を無事に乗り越え、祖霊への感謝を怠らずに生きるということの一つに、心も身も投じて幸せを求めることの逞しさは、こうした素材の行事や行事食から培われた賜りものであると思われる。

「がんばれのろまなカメさん」

日本ボーテジ協会 山梨支部

一木眞子 編



ボーテジプログラムに基づき、発達に遅れや偏りのある乳幼児を対象にした療育の場「すこやか教室」が開設されて十年になる。現在は甲府と富士吉田に教室があり、指導者五名、通級児六〇名、友の会員五〇名が揃う。一年に「文庫」を発行してきたが、このほどその七冊分が、立派な本となった。

ボーテジプログラムとは、発達に遅れや偏りが見られる乳幼児の療育からの早期教育プログラムで、今から三〇年ほど前にアメリカで開発された。現在は世界の九〇カ国に普及し、成果を挙げている。ボーテジとは、このプログラムが誕生したウイスコンシン州の小さな市の名前由来する。幼稚園や保育園、障害幼児通園センターなどで使われているが、基本的には指導者が子供を直接指導するのはなく、親と相談し、親に助言することによって、親自身が優れた教師になることを目指したプログラムだ。

文庫からは、教室の開設に至る経緯、家族がさまざまな心の葛藤と闘いながら、それを克服し、子供とともに成長していくすがたが伝わってくる。

山梨ふるさと文庫 ¥1500+税



毛無山山頂から展望する積雪の富士山



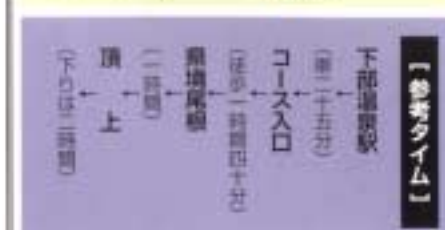
重文・門田家のある湯之奥集落

御坂山塊から続いて富士山の西面に連なる、天子山塊の中の最高峰が毛無山である。富士ヶ嶺の牧草地を含む広大な裾野をはさんで、富士と対峙しているため、何物にも邪魔されない富士の第一級の展望台だ。

山梨県側の登山コースは、下部温泉駅が起点になる。タクシー



富士ヶ嶺の牧草地から見る毛無山の全景



なりマイカーで温泉街を通りぬけ、湯之奥集落から林道に入る。四キロほど進むと道路脇に指導標がある。「中山金山」のいわれを記した看板も見える。

コースに入り、雑木とヒノキが茂った山腹のジグザグ道を登ると、やがてミズナラの大本が目印の山の神でわずかに展望が開ける。七面山や赤石岳など南アルプスの名峰を木の間に透しに眺めながら一呼吸。

尾根コースになってしばらくすると、最近国の史蹟に指定された中山金山遺蹟の脇を通過する。十数年前、専門家による大々的な発掘調査が行われ、出土した遺物は町の資料館に展示されている。

遺蹟から左に寄って荒れた小

沢を少し登り、県境尾根に達する。樹間に朝霧高原を隔てた富士が顔を出す。感激の一瞬だ。かん木の中の急斜面からモミ、ツガなどの黒木も混じる緩斜面をたどると、大きな三角点のある山頂に達する。こここの三角点は、県内に四つしかない一等三角点の本店である。

大沢くずれをやや右にした富士は、広大な裾野の上に悠然と構え、右手に天子山塊が連なる。暗れていけば駿河湾から伊豆半島も展望できる。三角点の位置より尾根を北東へ進むと、もっと高きがあり、展望もすぐれる。

下山は往路を引き返すが、都合によっては、南東へ富士宮市の麓集落に下って国道に出ればバスがある。

以上が早野欽介の記述であるが、構成者十五名中、早野以下旧甲府小運送関係者が三分の五の名を数えるのは当然であるが、相談役以下役員の顔ぶれは大物揃いといえる。

武田与十郎、現在のテノ武田株式会社の前身である武田醤油株式会社を創立、甲府市議会議員、商工会議所議員、県公安委員長等の要職につき山梨県の政治経済界で活躍した。甲府中学校時代の同級生に三井物産社長の

甲府通運創設期の役員構成

甲府通運株式会社役員構成予定は次の通り
(口述書申請の時)

相談役	小田切順三	計理士
同	須田正義	甲府小運送自動車
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役
同	平原伝八	山梨県肥料協会の会長
同	日置周蔵	株式会社日置商久商
同	横内亮	甲府市市会議員
同	青柳忠郎	甲府小運送自動車
同	常任監査役 広瀬慶治郎	甲府三製糸商會
同	取締役社長 早野欽介	甲府小運送KK社長
同	取締役専務 齊藤英太郎	甲府小運送KK専務
同	取締役常務 小野古利	甲府小運送KK常務
同	取締役 近藤克己	武田食料KK取締役



ワンちゃんたちを乗せて駆けめぐる
大型ワンボックスカーの活躍



忍野村の自衛隊駐屯地から近く。アカマツ林に囲まれた豊かな自然環境の中に「山梨警察犬・愛犬訓練学校」がある。県内の同業種のうちでは最も古く、今年で創業33年目。現在は、斉藤一社長と息子の賢さんが受け継いでいる。

トヨタビスタの営業担当、滝本さんと賢さんがいここにあたり、幼少の頃から互いによく知る間柄だという。5年ほど前、営業用にハイエースを購入したのは、ドッグショーや訓練競技会、警察犬の出動などに参加するためだ。出張先は北は仙台、南は四国までとかなり遠い。「人間も運転を交代しながら行くぐらいですから、犬にとっても大変なこと。でもこうした長距離移動がひとつの訓練なんです」と一社長。犬は体温が高いため、暑いと日射病にかかりやすいが、エアコンが効くのでその心配もない。「四輪駆動なので多少の雪でも安心して乗れますし、ラブラドルやシェパードなど大型犬をいっぺんに何頭も乗せるので、積載量が大きい点も魅力ですね」と賢さん。

社長自ら関東訓練士会の会長を務め、山梨県警察嘱託犬の大会においてはつねにトップクラス、訓練競技会

でも端から上位入賞を果たしている。当社は全国的にも有名で、その優れた技術の伝授を求めて、訓練士をめざす者も集まってくる。「犬は言葉は話せませんしね、生き物ですから、あまり度を越した訓練をするとストレスになってしまうんですよ」と賢さん。

「一人前の犬の訓練士になるには3年から5年かかる」そうだ。TVやラジオへの出演依頼もたびたび受け、事務所の壁には明石家さんまやナインティナインの岡村、ピンクレディーのミー、オリンピック水泳選手の萩原智子といった著名人とここで訓練された犬たちとの楽しい写真がいくつも飾ってある。

最近では、「癒しの存在」ペットとして人になつきやすい犬を飼う人の数が増えている。「どんな犬でもしつけられる自信がある」というお二人に、犬を飼うときのアドバイスを伺うと「家族の一員として愛情を注いであげてください。そしてぜひ、責任を持って飼ってほしい」とのこと。気持ちを送れば込めただけ、きちんと応えてくれるのが犬なのだろう。

【DATA】

〒401-0511 南都留郡忍野村忍草3226-6
☎0555-84-2487



元・顧問がOKサインを出した
折り紙付きの家

貫川沿いに立ち並ぶ閑静な住宅街。松島団地を縦走る道を脇へ入ると、庭の大きなケヤキがひととき目を引く家がある。出澤良人さん宅だ。

どこかしら垢抜けた雰囲気、グレード感漂う「シンセAⅢ」は、「子どもたちと一緒に暮らすように前より少し広くした」という二世帯住宅。1階は出澤さんご夫婦、2階は若夫婦。そして3階はお孫さんたちの部屋というようにフロアごとに用途を使い分けた。全部で73坪。1階には和室も二間設け、床の段差をなくしたり、階段に手すりをつけるなどバリアフリーにした。屋根の勾配を利用してつくられた3階も特徴で、



山の眺めがとても素晴らしいんですよ」と奥様もにこやかに話す。

じつは出澤さん、現・荻野常務らに腕を買われ、トヨタホーム山梨（株）で引渡し後のアフターメンテナンスや顧問を務め、長らく商品の向上に貢献し続けてきた人。建築専門のその目は厳しく、今回の取材でもご自身の感想を率直に語ってくれた。「お世辞はたゆとりの空間と言わない方だから」と前置きしつつ、それでも「私は運が良かった。ちょうど新築する時にいいのが出たんでね。この建物はいい。良くなっている」と力強い一言。

この春からは息子さん夫婦にお孫さんらも加わって、一挙ににぎやかになりそうな出澤家。ケヤキが青々と茂る頃には、青空の下に家族の笑い声がいっぱい響き渡ることだろう。



学生時代を過ごした杜の都仙台を訪ねた。三十数年前には一日がかりだった旅は、特急と新幹線で半日。当時四十万都市だった仙台は百万都市。私の大学生活は仙台駅前からタクシーにチャッキを積んで学

生寮の有朋寮へ向かうことから始まった。それから始めてタクシーに乗り込む。櫻並木の青葉通りを抜

け、広瀬川の谷を渡る。その先のかつての細道は自動車が渋滞する大通りに大変貌している。果たして有朋寮が今もあるのか不安になってくる。タクシーは私の指示した「鹿野前」のバス停に止まる。その先の細い路地を南下すれば、その奥に有朋寮があるはずだ。

あった。雑草の生い茂る中に細長いモルタル二階建ての棟が五つ、浴場棟や食堂棟もある。人影は見えないが昔のまま。建物の残存を喜ぶ私は寮棟にカメラを向けた。すると青年が一人棟から出てくる。まだ学生寮として使っているのか、私は驚嘆して寮に駆け込んだ。OBだと名乗ると、寮委員の学生が寮内を案内してくれた。

まず寮室を見せてもらう。二段ベッドは変わらない。乱雑な部屋の壁は落書きで真っ黒。退寮時に書き

残す習わしだったことを思い出す。次に浴場を見せてもらう。脱衣場には安保反対、三里塚闘争などの文字のビラが貼られている。当時のもの

会いたい人から 会いたい人へ
知りたいことから 知りたいことへ
リレーでつなぐエッセイ

寮歌



鬼丸智彦

おにまる ともひこ

作家 第九回やまなし文学賞受賞
第七回坊っちゃん文学賞受賞

だ。浴場を覗く。中央に四角の湯船、タイルが所々はがれている。南北の壁に蛇口。私は絶句した。昔の浴場がそのまま今も使われているのだ。最後に食堂に入る。食事を知らせてくれた大太鼓が鎮座していた。もう古いので三神峰の観桜コンパの時だけ打ち鳴らすという。かつて旧制二高があった三神峰の花吹雪の中で先輩に酒を無理矢理飲まされた光景が思い浮かぶ。「観桜コンパか、懐かしいな」と私が呟くと、「明日は試胆会ですよ」と寮委員。「えっ、まだ

試胆会も」と私はまた絶句。三十数年前のちょうど今頃、私は寮の窓のカーテンで作った右肩出しのミニスカートで纏ってモップを担いで東一番丁に繰り出し、擦れ違う女学生を

騒がせたのだ。懐かしさに胸が熱くなる。そんな私を見て、寮委員は申し訳なさそうに「これが最後の試胆会です。再来年には有朋寮は撤去されま

す」と告げる。無理からぬことと思いつつ、「新寮が建設されるように頑張って」と激励して有朋寮を後にした。

その翌日、有朋寮を退寮した後親しくなったFさんを訪ねた。有朋寮の先輩で設計事務所の社長、私と同じ亥年生まれで誕生日が同じ。そのためか、私はFさんの幼かった息子三人から「オニマル君」と渾名をつけられて慕われた。三十年ぶりの再会にもかかわらず美味しいササニシキの寿司で大歓迎された私は、思いがけないことを知らされた。数年前に二高寮歌「散りにし花は」の石碑をFさんが設計して三神峰に建てたという。

土産に笹藪餅をいただき、帰途についた私は、「散りにし花は幻か、我が若き日の夢なるか、友よ憂いの根を秘めつ、過ぎゆく春を惜しまん」の寮歌を口ずさみながら、次の小説に向けて創作意欲を湧き起こしていた。

土産に笹藪餅をいただき、帰途についた私は、「散りにし花は幻か、我が若き日の夢なるか、友よ憂いの根を秘めつ、過ぎゆく春を惜しまん」の寮歌を口ずさみながら、次の小説に向けて創作意欲を湧き起こしていた。

早野組のシンクタンク、その核を成すセクション

「できるものなら頭脳を拝見させてほしい」という気にさせられる人。人間の脳の神経細胞は大学受験の頃がピークで、20歳を過ぎた辺りから衰退傾向をたどるといわれている。が、この人は違う。

早野組開発部の森田二三夫部長(52歳)。昭和44年に入社し、すでに勤務32年。うち20年近くは土木の現場を担当してきた。民間のクライアントと接する中で、もともと嫌いでなかった設計や積算といった仕事分野へ次第に移行。「いつの間にか施工とは完全に離れ、許認可に関わる仕事を専門に引き受けるようになった」と話す。ひとつの建物を建てるには、都市計画法や道路法、河川法など、あらゆる関連法規がついてまわる。つまりは、それらの法的基準を満たし、スムーズに施工へ結びつけるセクションだ。

「うっかり何かリストアップを欠くと、また振り出しに戻らなければなりませんし、最初の見極めが肝心」という。

顧客の満足、付加価値のついた施工

全体の中で開発の占める割合を額に換算すれば、ほんの微々たるもの。しかし、建築行為を実行するにはまず行政から許認可が下りて始めて叶うのであり、極めて重要な仕事だ。「設計と施工を一貫して行うので、地元の人々の声を工事に反映できますし、クライアントに安心感をもっていただけるなど利点も大きいんです」。根っからの仕事好き、難しいのは、マニュアル通りにいかないところ。「但し書きをいかに運用するかがポイント」であって、そうした部分の方が大きいのだという。土地の有効利用といったコンサルティング的なことから、竣工後の登記や地目変更まで、関わる仕事は幅広

い。時には税金の相談をされることもあり、機転を効かせ、人脈を活かして臨機応変に対処していく。

いちばんの思い出があるのは、最近では楯形町のヤオハン。「土地の売買からお手伝いし、地元の方と一緒にハンコをもらい歩きオープンまで5年かかりました」。また、ここ5年ほどは宅地造成などにも携わり、八ヶ岳南麓のリゾート宿泊施設「泉郷」も手がけてきた。

許認可の仕事を全て終わるのに要する時間は、早くて半年程度。物件は単体ではなく、複数を同時進行で行うというから驚きだ。難しい課題をそんなに抱えて頭がパンクしないのだろうか、不思議になってしまふ。「会社に来るのが好きで昔から土曜は必ず出勤している」という森田部長。目の前に与えられたハードルを越えるため、努力を惜しまない仕事熱心な人柄。まさに会社の財産ともいえるキーマンだ。健康に気をつけて、どうかこれからも頼もしい活躍を続けてください。

お客様に満足していただき 着実に施工に結びつける 仕事の要

株式会社早野組 土木本部開発部 部長

森田 二三夫さん(竜王町)



やさしい手

HAND TO HEART
在宅介護のヒューマンケアサービス
甲府

「訪問介護サービス」とは

(株)やさしい手甲府が行っている介護サービスのひとつ。要介護者が住み慣れた自宅で生活を続けられるよう、ヘルパーがお宅へ訪問し、身体介護や家事援助など様々なサービスを行います。料金は介護保険適用で、ご利用者は1割負担で全国一律ですが、当社では介護保険適用外の生活支援サービスもご利用いただけます。※詳しいサービス内容・費用については前号を参照するか、やさしい手甲府各事業所までお問い合わせください。

いつでも、どこでも安心しておまかせ下さい 年中無休・24時間対応

甲府市を中心に24時間いつでも対応できる特別チームを編成。毎時3名以上のヘルパーさんが待機しているの、要介護者をみてもらえない時間帯でも家族の心強い助っ人になります。

専用タクシーとヘルパーさんの介助で らくらく通院

(株)合同タクシーと提携し、専用の福祉カーをご用意。乗り降りがラクなよう工夫してあるので車イスの方も心配いりません。プロの運転とヘルパーさんの介助で、安心して通院ができます。



Q.訪問介護サービスはどうすれば利用できるの？

A.サービスの利用は要介護認定をされている方が対象です。(要介護認定を受けていない方は、まず申請の手続きを行って下さい。当社でも代行いたします。)
ケアプランを作成し、それに基づいてサービスを提供いたします。(プランは介護支援専門員(ケアマネージャー)という資格者に依頼できます。)

Q.どんなことをしてくれるの？

A.要介護者が住み慣れた自宅での生活を支援することが目的です。例えばご利用者に対しての料理、掃除、洗濯等の家事援助から、食事介助、入浴、着替え等の身体介護などがあります。(家政婦ではありませんので専門の介護サービスに限られます。)

Q.誰がきてくれるの？

A.専門の技術を修得した2級ヘルパー等の資格者がうかがいますので、安心して介護をお任せいただけます。

Q.費用はいくらかかるの？

A.介護保険適用で、法定費用の1割負担でご利用できます。金額は時間帯やサービスの区分によって違いますが、例えば家事援助の場合は1時間153円、身体介護の場合は1時間402円といった具合です。

Q.どこまで来てくれるの？

A.やさしい手甲府の事業所は山梨県内に9ヶ所あります。最寄りの事業所からヘルパーを派遣いたします。ただし、地域によってうかがいできない地域もありますので事前にお問い合わせ下さい。

☎0120-063-226 <http://www.yasashiite-kofu.co.jp>

甲府本社：〒400-0025 甲府市朝日5丁目4-16 TEL055-255-6334 / 甲府北事業所：☎0120-063-226 / 甲府南事業所：☎0120-063-026 / 昭和事業所：☎0120-063-180 / 並崎事業所：☎0120-063-226 / 勝沼事業所：☎0120-063-230 / 一宮事業所：☎0120-933-230 / 忍野事業所 TEL0555-20-5187 / 富士吉田事業所：☎0120-063-226 / 殿沢事業所：☎0120-933-226

個室形式で気楽に くつろげるレストラン

ノエル オー ピットイン



オレンジベージュの瓦屋根がプロヴァンスの民家を思わせるこのレストランは、昨年九月にオープン。「お客様にいつでもクリスマスのような暖かいおもてなしができるように」とこの店名を名づけた。和食をベースにした料理で、お肉やお魚の他に豆腐サラダや串揚げ、グラタンやピザパイといったメニューが並ぶ。オーナーの小林さんによれば「肩の凝らないカジュアルな

雰囲気を出したくて、お箸もお出ししている」そうだ。ランチは、チキンカレー(八六〇円)、じゃがいものコロッケとトマトソースのバスタ添え(九五〇円)、豚肉の和風ハンバーグ(九五〇円)の三種類。サラダにコーヒールー紅茶、アイスクリーム付きでこの値段は手頃だ。パーテーションで仕切られた店内は、全部で三十二席。



ランチの灯や天然木のぬくもり、感も心地よい。あらかじめ注文すれば名入れケーキも製作可能。卒業や入学のお祝いに、また、誕生日や記念日などに、気軽に利用してみたい。が、



営業時間
11:30~14:30(ランチ)
14:30~17:00(ティータイム)
17:00~21:30(ディナー)
定休日 月曜日
所在地 甲府市住吉1-16-4
TEL 055-227-5577



※8名様・1部屋 / 12名様・1部屋 / 4~6名様・3部屋 各種ご予約承ります

おしゃれ

上質専門館 いずぎ家具

暮らしに潤いを与える
個性的なインテリア

風趣な家具が、あちらこちらに配され、つい見入ってしまう。そんな店。明治三十年創業というこの老舗は、個性的な家具を提案する。ことをコンセプトに下は何百円の小物から価値ある一品ものまで幅広い品揃えで展開。一階はカ



イタリアの家具をはじめ、イギリスのアンティークや世界的にも有



名なアメリカのブランド、今流行りの北欧製や東欧製の商品なども扱っている。あと少し手を伸ばせば買えそうなラインが特徴で、県内では他にほとんど見られない。いめずらしさがウリ。時計や鏡、ブックエンド、ランプやリトグラフなどは、贈り物にも最適だ。こんな粋で洒落た品なら、贈られる方もきつと喜ぶだろう。今すぐ必要でなくても、普段から目星をつけておくのはいいかもしれない。散歩気分フラッと立ち寄ってみるのがおすすめだ。



営業時間 10:00~19:00
定休日 水曜日
所在地 甲府市相生2-3-17
TEL/FAX 055-233-2783

—たべる—



某月某日

経営者と報酬

×月×日

昔、著名な経済学者が「私は株式市場と言うものを原則的には信用しない。株式制度というものは、企業に一定の資金を投資して、配当もしくは株価の上昇と言う報酬を受け取るといった制度であるが、いったい企業の経営者が株主の利益を考えて会社を経営するとは到底思えないからである。経営者にとって関心のあるのは自分の受け取る利潤であって、企業の業績とか株価といったものは、勲章に過ぎない。」と書いているのを見てびっくりしたことがある。

この発言はいささか極端に過ぎるであろうが、サラリーマン(もう死語か?)をやっているとなんとなく思い当たる節もある。自

経営者の悲劇

分の会社の業績あるいはもう少し小さくして支店などの組織の業績もある程度は気になるが、本当に関心があるのは「自分がどのように評価されているか?」とか、極端な話になると「自分がやった仕事に対して正当な報酬を得られているか?」という、あくまで自分に関することが第一と考えざるを得ないからである。

これが経営者になると急に、業績・株価および最近になっては企業の社会的責任などと言うものにまでも責任を負わなくてはならなくなる。ある意味で、サラリーマン経営者が宿命的に背負っている悲劇とも言える。

アメリカの報酬システムの罫食肉の原産地表示

×月×日

1990年代になって、アメリカでこのようなジレンマをある程度緩和するシステムが盛んに使われるようになった。報酬をストック・オプションによって支払うと言うもので、簡単に言うならば、「会社の業績が上がって株価が2倍・3倍となってゆけば、役員たちは莫大な報酬を受け取るが、業績が上がらない場合には極端に低い報酬しか受け取れない」というシステムである。

過去10数年間これは、非常にうまく機能した。ベンチャー企業といえどもある程度の規模になると、いわゆる経営の専門家を責任者として外部に求めなくてはならない。ストック・オプション制度のもとで彼らは良く働いたし(業績が上がらなくては報酬がゼロになるから当然か)、株価と経営責任を直結させたこのシステムは、一般投資家の株式市場への信頼回復への足掛かりともなっていて、アメリカの株式ブームを引き起こしてゆく。

しかしながら最近になって、システムを根底から揺るがす事件が起こっている。エ

ンロン社の経営責任者たちは、「簿外取引」を巧みに利用して業績の粉飾を行い、巨額の報酬を受け取った後に会社を去り、その後当然のように会社は倒産という一連の事件である。

この事件では、彼らの行っている献金などが大いに話題になっているようであるが、本当に重大なのは、ストック・オプション・システムそのものに弱点があったと言うことである。

この様な弱点が頻繁に現れるようになると、システムそのものに対する信頼感、即ち投資家の株式市場に対する信頼を失うことになりかねない。

社会科学には常に「システム(制度)かモラル(道徳)か」という命題が付きまとう。企業・経営者のモラルの問題と同時に、システムに弱点がないかを常に考えなくてはならない。日本では食肉の「原産地表示」が問題となっているが、モラルと言うよりもシステムの問題ではないだろうかと考えてしまう。 [文:杉村 聡]